授業づくり講座　赤岡中学校

「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト　いつでも、どこでも、だれでも　学べる場へ！

発行:令和２年１２月　東部教育事務所

東部教育事務所管内の中学校全 24 校及び管外２校から計 89 名が参加しいま求められている社会科の授業づくりについて学びを深めました。

単元名「私たちと経済（１）市場の働きと経済」

【目指す生徒の姿】消費者の役割と責任、価格の決まり方などについて理解し、それを基によりよい生活を送るために、様々な条件下で最適な判断をすることができる。

【社会的な見方・考え方】対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、身近な消費生活を中心に経済活動の意義や課題について考えを深める。

【単元を貫く問い】

お金の価値ある使い方を考えよう。～それってホントにお得なの？～

【授業者】濵　裕介　教諭

【講師】愛媛大学教育学部　講師
井上　昌善　先生

教材研究会(9 月 30 日)

授業者からの提案　～教材の捉え～

経済活動における、消費者の役割（消費活動が企業や価格に与える影響）と責任（労働の義務、消費者としての知識）などを理解した上で、よりよい生活を送るために、様々な条件下で最適な判断ができる知識を養う。その際、経済活動の課題に対して、社会的な見方・考え方を働かせながら思考・判断・表現しようとする力を育む。

協議の視点①

【単元を貫く課題】
単元を貫く課題は、付けたい力の実現を目指し、問題解決学習を進めていくプロセスでの有効的な課題となっているか。

- 付けたい力である「最適な判断ができる」に対して、有効なお金の使い方という視点で迫っていくことは効果的である。
- 「見方・考え方」を働かせながら追究する問いを毎時間設定しているので、生徒たちが考え続ける単元構想になっているのではないか。
- 「有効」というキーワードより、生徒が考える時に、思考をもう少し焦点化できるようなキーワードがよいのではないか。

協議の視点②

【各時間の問いと単元を貫く課題のつながり】
各時間の問いは、生徒が見方・考え方を働かせることができるものとなっているか。また、単元を貫く課題とのつながりがあるか。

- 生徒は自分事として「得か損か」で考えるので、社会全体の問題につなげていくためには「問い」に少し弱さを感じる。第２次の「問い」を、社会の問題に対して見方・考え方を働かせながら挑戦したくなるような問いに変更してはどうだろうか。
- 各時間の振り返りの場面で、単元を貫く課題に対して、その時間で学んだことを基に考えさせることで、単元を貫く課題とのつながりが深まるのではないか。

井上先生からの指導・助言

◎問題（課題）解決学習の授業構成について

段階	方法
第一段階	問題（課題）の把握 ⇒問題（課題）について知る。
第二段階	問題（課題）の追究 ⇒問題（課題）の要因・原因について追究する。
第三段階	解決策の検討 ⇒問題（課題）の解決策について検討し提案する。

『課題（問題）』とは！？その『課題（問題）』の要因・原因は！？
『課題（問題）』解決の取り組みは！？

◎『自分事』として考えさせたい。⇒『公民』として考えることができるように指導することが重要。

（生活レベル）**地域 ⇒ 日本 ⇒ 国際社会**
（つながり）　**地域**レベル⇔**国**レベル⇔**世界**レベル

育成すべき「公民」の人間像によって、授業のあり方が規定される。

授業研究会(10 月 27 日)

授業の視点

【課題】
流通のシンプル化は消費者にとって本当にお得なのか。

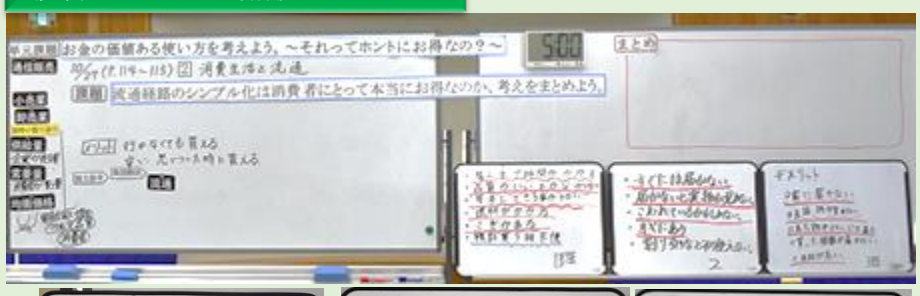
【社会的な見方・考え方】
効率と公正、分業に着目し、流通が消費者に与える影響について多面的に考察し、経済活動の意義について考える。

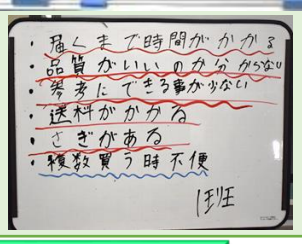
【ゴール（目指す生徒の姿）】
流通において卸売業が少なければ、消費者はそれだけ安く購入することができる。しかし食材や日用品など多くの商品を購入する際は、手間を省くため多少高くても一括して購入できるスーパーを選ぶこともある。また、実際に商品を見て購入できるという安心感なども消費者にとっては大切なので、安さ重視で卸売・小売を省くのは消費者にとってデメリットでもある。

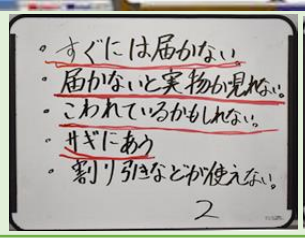
研究協議より

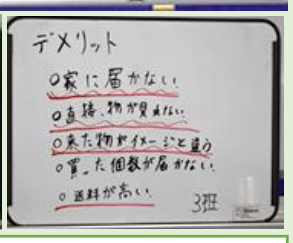
- ゴールにつなげるために身近な生活レベルでの問題を取り扱ったので、生徒が自分事として課題に迫れていた。
- 見方（「効率」、「分業」）に着目しながら生徒が課題を追究していたので、本時のねらいに迫れていた。
- 単元構想がしっかりと考えられているので、生徒たちが既習の内容をつなげながら学習ができていた。
- なぜ、そのような判断をしたのかという根拠を言語化していく部分が弱かった。教師側が生徒の発言に対して、受け止めるだけでなく、根拠を問い返す場面があればもっと深まりが生まれたのではないか。
- 自分だけでなく、同時に社会をよくするためにはという視点を持たすことも、公民として考えるきっかけになるのではないか。

板書とグループ協議でのまとめ









授業者より

授業づくり講座を通して、単元構想についての理解が深まりました。単元末の生徒の姿を具体化することで、ゴールイメージが明確になり、単元を貫く問いと各時間の問いにつながりを持たせやすくなりました。それとともに、見方・考え方を働かせながら課題に迫り、思考が深まるよう授業展開を考えるようになりました。また、つながりのある問いを設定したことで、生徒自身も授業で培った見方・考え方を働かせて、自分の考えをより深められたように感じています。

指導案検討を重ねていく中で、新たな気付きもありました。例えば、今までの評価のあり方では、学習の成果を的確に捉えることや、指導改善や学習改善へのつながりが不十分だったので、指導と評価の一体化を意識した単元構想を繰り返し行うことが大切だということです。講座での新たな気付きを今後の課題として、更なる授業改善に努めていきたいです。

最後になりますが、授業づくり講座を経験させていただき、社会科教員としての楽しさを再確認できました。貴重なお時間をいただき参加していただいたすべての先生方に感謝します。

参加者の声

～今日の講座の学び～

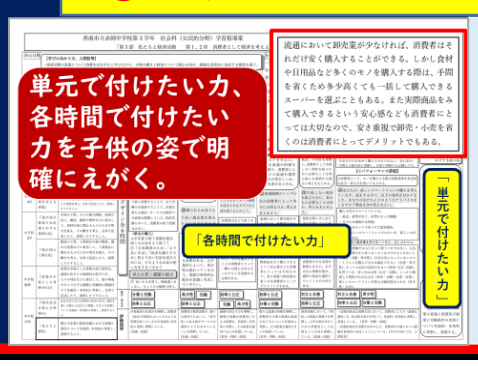
○各時間で身に付けた力を使って解決できる評価問題（パフォーマンス評価）を作り上げなければならないと感じました。また、自分事だけでなく、「公民」という視点を大切に授業設計することが大切であることにも気付きました。
○めあてや学習課題の設定次第で生徒に身に付く力が大きく変わるということが改めて分かりました。

～講座を受けて自分の授業で取り入れたいこと～

○学習を「知識」から「思考」に変えるために、「なぜ、そう考えたのか？」という切り返しを大切にしていきたいと思います。
○目指す生徒の姿と単元課題とのつながり、また各時間の問いとのつながりを研究していきたい。その際に「社会問題」を取り上げることにも取り組みたい。

授業づくりのポイント

①　単元ゴールの明確化



単元で付けたい力、各時間で付けたい力を子供の姿で明確にえがく。

単元構想を考える際に、**単元のゴールを子供の姿でえがく**（単元末での発言の様子やまとめの内容）ことで、単元全体の方向性が明確になります。

②　単元を貫く問いと各時間の問い

各時間の問い

1. 政府が定額特別給付金を配ったねらいは何か。
2. 限られたお金でより高い満足度を得るためにはどうすればよいか。
3. 今後のマスクの値段はどうなるのか？モノの価格の決まり方から考えよう。
4. 流通経路のシンプル化は消費者にとって本当にお得なのか。
5. 失敗しない契約を結ぶために、私たちに必要なことは何か。

単元を貫く問い

お金の価値ある使い方を考えよう。～それって本当にお得なの？～

・「単元を貫く問い」と「各時間の問い」のつながりに整合性はあるか。
・生徒が自分事となるような問いとなっているか。

各時間の学びがつながり、単元を通しての学習が充実する

単元を貫く問いと各時間の問いにつながりを持たせることで、学びがつながり、単元を通しての学習が充実します。その際に、問題解決学習の授業構成になっていることも大切です。

③　問いの設定

「問い」の設定について

- 授業のねらい（学習目標）と整合し、授業のねらいが達成できる課題を設定する。
- 生徒にとって取り組める（解決できる）課題を設定する。
- 生徒の既習知識をゆさぶり、知的好奇心を触発する課題を設定する。
- 場面設定を生かし、臨場感を持たせる課題を設定する。
- 実際の社会との結び付きを意識させ、有用感のある課題を設定する。
- ワクワク、どきどきするような課題を設定する。

子供たちが**ワクワク、どきどき**するような問いを設定することで、課題に対して**「問い続ける」**、**「探究し続ける」**力の育成につながります。